

委員会 レポート

委員会活動として、閉会中に行った所管事務調査の結果内容を、各委員会は第8回定例会において、次のとおり報告しました。

総務文教常任委員会

委員長 口田邦男

調査事項 冬季スポーツの振興について

【本町の取り組み】

本町の冬季スポーツとしては、アイスホッケー、スピードスケート、歩くスキーなどがあり、健康づくりや競技スポーツとして行われている。

町民が、競技用のスケートリンク、通年利用型の水泳プール等、

町内にない施設を利用したいときは近隣町や帯広市の公共施設等を利用して利用している。反対に町外からは本町のアイスアリーナを利用するなど、広域的な利用が図られている。

教育委員会では、各種スポーツ教室等を開催し、町民に健康づく



帯広市屋内スピードスケート場を視察

りの機会を提供しているが、参加者の固定化や減少がみられるため、事業の見直しなどが検討されていた。

【スケート場】平成21年に道内で初の屋内スピードスケート場としてオープンし、は、1日大人が800円、国際大会に対応した1周400mのリンクのほか、は無料となっている。なお、年間の施設利用料や広告料等での収入が5500万円に對して、維持管理に約2億円の経費がかかっている。今後は、国際大会を継続的に誘致し、いかに入場料収入を確保するかが課題となっている。

【地域包括支援センターの取り組み】

地域包括支援センターは、高齢者の健康維持、保健・福祉・医療

向上のため、援助や支援を包括的に行なう中核機関として、平成18年より設置されている。業務内容は、介護予防ケアマネジメント業

【特別養護老人ホームせせらぎ荘】平成22年10月現在の利用者は73名で、42名の職員が介護に従事している。町内入居者の割合は88・9%、施設全体の稼働率は94・2%となっている。

高齢者を地域のネットワークで支えていくような体制づくりに取り組んでいるとのことであった。

調査事項

地域包括支援センターの取り組み 介護保険施設について

産業厚生常任委員会

委員長 奥秋康子

今後の運営については、定員増が難しい状況のため、短期入所者

【小規模多機能型居宅介護施設さくらさくら】同施設では、地域密

着型サービスとして小規模多機能型居宅介護事業を実施している。要介護者の状態に依

じ、通所を中心に宿泊等を組み合わせるサービスを提供、在宅での生活が継続できるように支援している。地域密着型のため、利用者が介護職員と家庭的な雰囲気の中、なかに過ぎるという利点がある。現在、送迎は無料だが、有料化の制度の施行により、検討がされていた。



せせらぎ荘での視察